

意識データ

「現代女性のボディと文化に関する調査」

1980(昭和55年)

株式会社 ワコール

時代という大きな流れの中で変化していく`女性美`の定義。それは`女性の人体`についても同じです。

風俗、習慣、生活環境などその時代を構成するあらゆる要素(=文化)が、その基準をつくり、定義づけをしてきたようです。

ワコールでは、これまでボディに関する意識や実態などの調査研究、ゴールデン・プロポーション(GP)やビューティフル・プロポーション(BP)の提案など、いろいろな観点から`女性の美しさやボディ`について追求してきました。

そして、80年代は女性の時代、といわれる中で、「女性のボディと文化との関わり合い」を調査し、さらにコメント集「文化は女性のボディをどこまで変えうるか？」を併せ、'80年春のキャンペーン「ボディは自然が大好き。」の一環として、ここにまとめました。

この資料が報道関係の皆様のお役に立てば幸いです。

1980年 3月

株式会社 ワコール 宣伝部

現代女性のボディと文化に関する調査《目次》

調査企画.....	1
1. 洋服やきものを着るのは「社会的な習慣」、「ボディの防暑・防寒」のため。.....	2
2. ファンデーション(下着)をつけるのは「習慣だから」とする女性。 「体の線をくずさないため」とみる男性.....	3
3. お化粧は「きれいになるため」が第1位。でも、第2位以下は男女差が。.....	5
4. 「洋服や下着を着ない時・お化粧をしない時があってもいいな」と思うことが・・・	6
5. 「流行」——“多少は取り入れる”洋服購入時。 日頃の服装やお化粧は“気に入らないと取り入れない”	8
6. 「好みの色、柄、デザイン」「個性」「自然に」がオシャレの3要素。.....	10
7. この世に男性がいなくても、女性の3人に2人はオシャレする。.....	11
8. 無人島で一人過ごす時の服装は「軽装」が一番。.....	12
9. 80年代に求められる女性のボディ.....	13
10. 「女性の美しさにも知性が必要」「オシャレやお化粧にも自分の個性を大切に」 「下着はつけ心地の楽な方がよい」、そして「健康美にまさる美しさはない」.....	14
11. “スポーツをしたいが、していない”現代女性は10人に6人以上。.....	16
12. 食生活のコントロール、「していない」人が65.2%。 「している」人は3人に1人で「健康」のため。.....	18
13. “人づきあい”積極的5人に1人、ある程度5人に4人。 理想の形は「広く・浅く」が第1位.....	19
14. 「無理をして結婚するつもりはないが、自分にふさわしい相手がみつければ 結婚する」現代女性(未婚者)の結婚観.....	20
15. 結婚の実態、“妥協組”と“理想組”がほぼ同数。 でも、半数以上が“ハッピー！”です。.....	21
16. 女性の2人に1人は、将来の理想や目的をもっている。.....	22
17. “自然に生きる”女性が圧倒的。しかし、男性の見方は“やや背伸びしている“	23
18. 80年代にふさわしい理想的な女性の要素.....	24
19. 80年代にふさわしい理想の女性.....	26

● 調査企画

1. 調査目的：女性の美しさの基準・定義は、その時代の風俗、習慣、価値観などによって変化してきました。それは、女性の^{ボディ}人体についても同じです。

この調査は、多様化する価値観や目まぐるしく変化する生活環境の中で、現代女性のボディとそれを取りまくファッションや化粧、そして考え方や生き方などを、「女性のボディと文化」と題して、その意識と実態を探ることを目的とした。

また、同時に、比較要因として、男性の立場からの見方をとって見た。

2. 調査対象：首都圏在住の女性 250 人、男性 100 人。（計 350 人）

● 女性 18 才～ 39 才（学生、OL、主婦専業）

● 男性 20 才～ 39 才（1・2 部上場企業のサラリーマン）

3. サンプル数：女性 250 サンプル、男性 100 サンプル（有効サンプル）

4. 標本構成：〈女性〉

サンプル数	年 令					未 既 婚		職 業			体 型			
	18 ～ 19 才	20 ～ 24 才	25 ～ 29 才	30 ～ 34 才	35 ～ 39 才	未 婚	既 婚	主 婦 専 業	O L	学 生	や せ 型	標 準 型	肥 満 型	無 回 答
250 100%	8 3.2	100 40.0	69 27.6	38 15.2	35 14.0	122 48.8	128 51.2	100 40.0	100 40.0	50 20.0	80 32.0	138 55.2	15 6.0	17 6.8

（上段：サンプル数、下段：％）

〈男 性〉

サンプル数	年 令				未 既 婚	
	20 ～ 24 才	25 ～ 29 才	30 ～ 34 才	35 ～ 39 才	未 婚	既 婚
100 100%	10 10.0	34 34.0	34 34.0	22 22.0	49 49.0	51 51.0

（上段：サンプル数、下段：％）

5. 標本抽出法：層別無作為抽出により実施

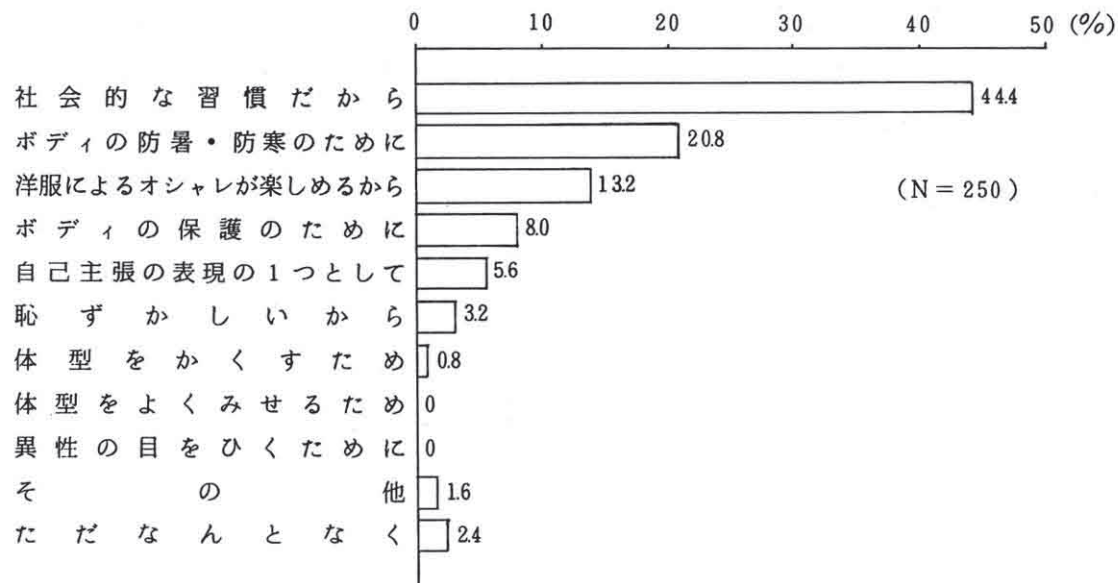
6. 調査方法：留置法および面接法

7. 調査期間：昭和 55 年 1 月 20 日～ 31 日

／ 洋服やきものを着るのは「社会的な習慣」、「ボディの防暑・防寒」のため。

Q. あなたは、なぜ「洋服・きもの」を着るのですか

〔図-1〕洋服やきものを着る理由は



「なぜ、洋服やきものを着るのか？」日頃あまり意識しない質問をしてみたところ、「社会的な習慣だから」とした女性が、全体の44.4%と最も多かった。次いで「ボディの防暑、防寒のために」（20.8%）、「洋服によるオシャレが楽しめるから」（13.2%）となった。

「体型をかくすため」は極めて少なく、「体型をよくみせるため」や「異性の目をひくため」は皆無だった。

職業別にみると、「社会的な習慣だから」とするのは「主婦専業」「OL」に目立って多く、「学生」では「ボディの防暑・防寒のために」と半々だった。

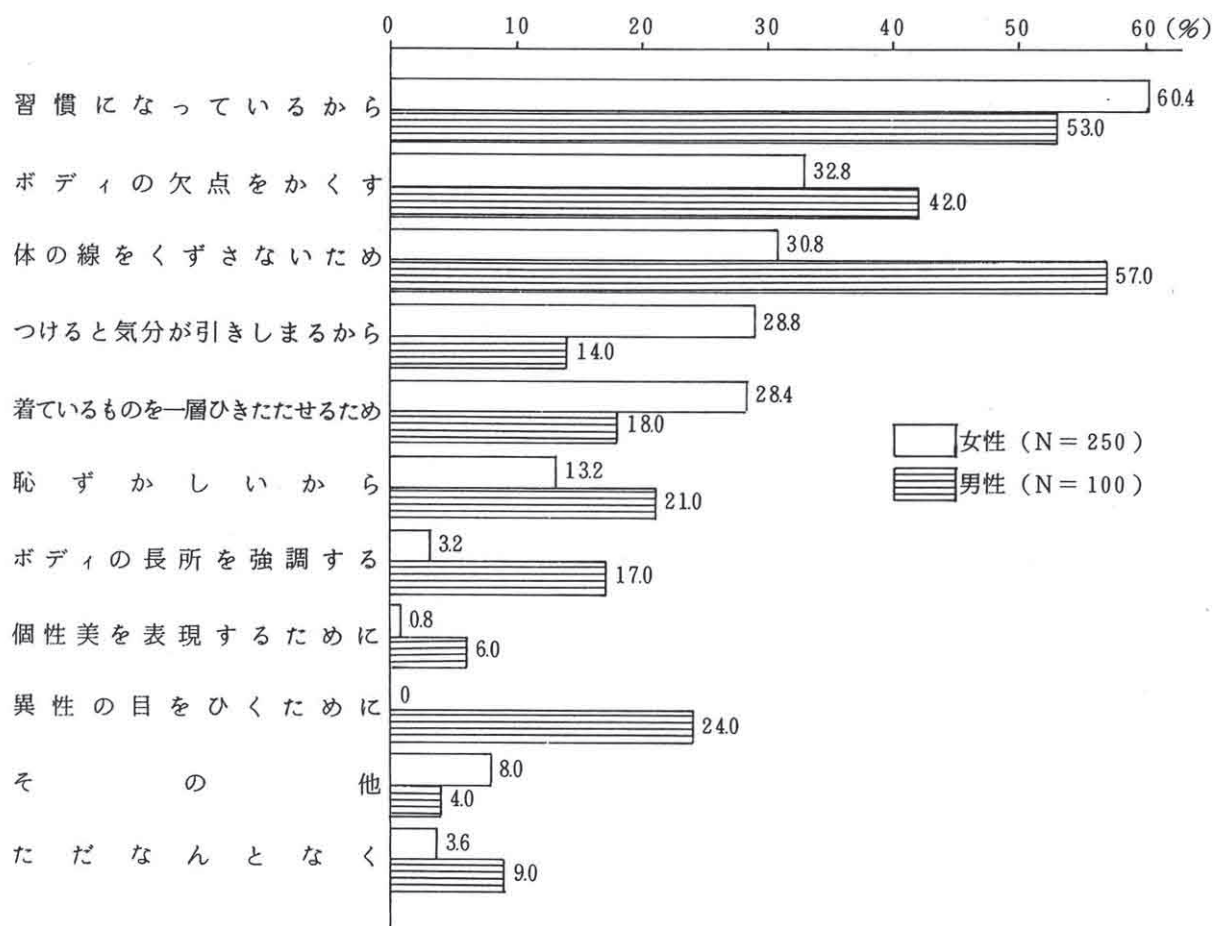
体型的にみると、第1位、2位は変わらないが、第3位に、「標準型」では「オシャレが楽しめる」、「やせ型」では「ボディ保護のため」が上がった。

② ファンデーション(下着)をつけるのは「習慣だから」とする女性。「体の線をくずさないため」とみる男性。

Q. なぜ、女性はファンデーション(下着)をつけるのだと思いますか。

<回答は3つまで、男女共通>

〔図-2〕女性がファンデーション(下着)をつけるのは



女性がファンデーション(下着)をつけるのは、「習慣になっているから」と回答した人が60.4%と、女性では圧倒的に多かった。次いで「ボディの欠点をかくす」(32.8%)、「体の線をくずさない」(30.8%)、「つけると気分が引きしまるから」(28.8%)、「着ているものを一層ひきたたせるため」(28.4%)が上位を占めた。

年齢別では、「習慣」とするのはいずれも50%以上とトップだが、「ボディの欠点をかくす」「つけると気分が引きしまる」という理由は、20代までの女性は2~3割だが、30代では4割以上と高くなっている。また、「体の線をくずさないため」という理由は、20代後半と30代では25%前後だが、20代前半では40%近い。若人は体の線をくずさないために「予防」し、年

令が高い人ほど「欠点を隠す」というのがうかがえる。

職業別では、「習慣」がトップであることは変わらないが「つけると気分が引きしまる」「ボディの欠点をかくす」は、主婦専業、OL、学生の順で少なく、「体の線をくずさないため」は、その順序が逆となっている。

ただ、OLでは、「着ているものを一層ひきたたせるため」が第2位に上がっているのは注目される、

体型別では、肥満型の女性だけが「ボディの欠点をかくす」を第1位とした。

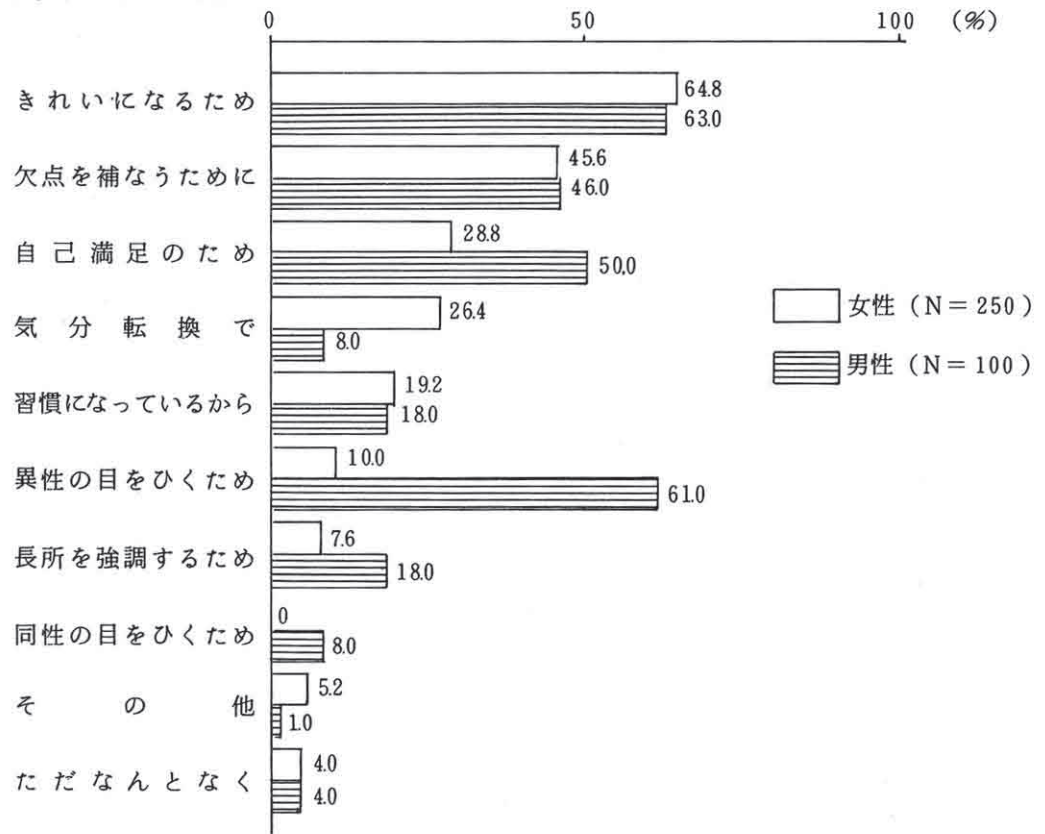
同じ質問でも、男性の場合は、その見方が異なっている。男性の目からは、「体の線をくずさないため」（57.0%）が第1位。次いで「習慣になっているから」（53.0%）、「ボディの欠点をかくす」（42.0%）、「異性の目を引くため」（24.0%）、「恥ずかしいから」（21.0%）となっている。順位を別とすれば、上位3つの理由は同じだが、「異性の目を引くため」とする女性は皆無であったのに対し、男性では約4人に1人（24.0%）と第4位に上げている。

「女性がファンデーション（下着）をつける理由」については、男女でその回答ぶりにかなりの違いがあった。

3 お化粧は「きれいになるため」が第1位。でも、第2位以下は男女差が。

Q. 女性はなぜ、お化粧をするのだと思いますか。〈回答は3つまで、男女共通〉

〔図-3〕女性が化粧をする理由は



女性はなぜ、お化粧するのか。ごくあたり前の理由「きれいになるため」（64.8%）が第1位になった。次いで、「欠点を補うため」（45.6%）、「自己満足のため」（28.8%）、「気分転換」（26.4%）の順となった。

洋服や下着でみられた「習慣」性は、19.2%と非常に少なかった。また、「異性の目を引くため」と回答した女性が洋服、下着では皆無だったが、ここでは10%みられた。

年齢別では、1位・2位はいずれも同じだが、24才以下で第3位に「気分転換」をあげ、また、「異性の目を引くため」とするのも24才以下が、他の年齢より約3倍多くなっている。

職業別では、1位・2位はいずれも同じだが、第3位をみると主婦、OLでは「自己満足」としているが、学生では「異性の目を引くため」とし、主婦（5.0%）、OL（9.0%）に対し22.0%と高率を示している。

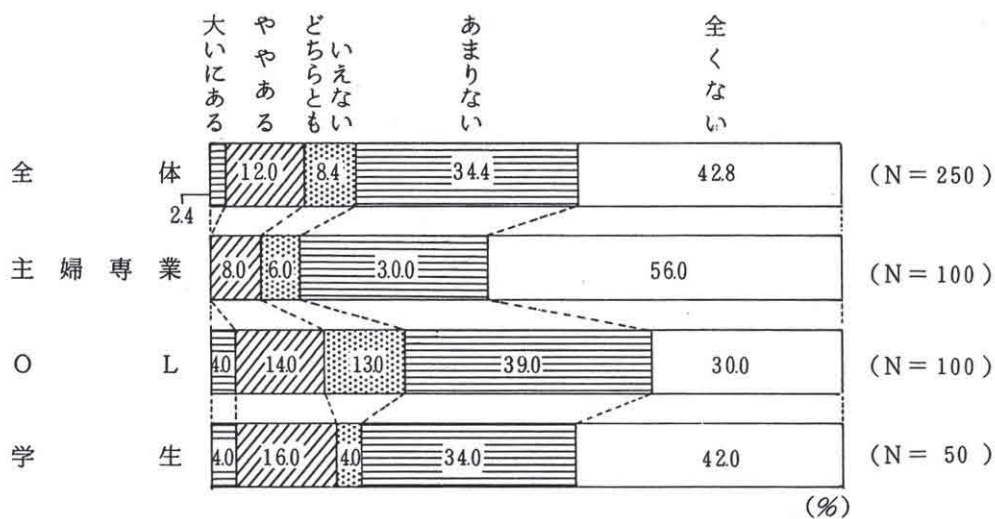
一方、男性の見方は、女性同様「きれいになるため」（63.0%）を第1位の理由としてあげているが、「異性の目をひくため」とする人が61.0%とかなりの高率で第2位となっている。次いで、女性では第3位だったもののあまり比率の高くなかった「自己満足」が50.0%と高率を示した。

4 「洋服や下着を着ない時・お化粧をしない時があってもいいな」と思うことが

- ない — 洋服(77.2%)・下着(62.8%)
- ある — お化粧(78.4%)

Q. あなたは「洋服や下着などを着ない時、お化粧をしない時があってもいいな」と思うことがありますか。

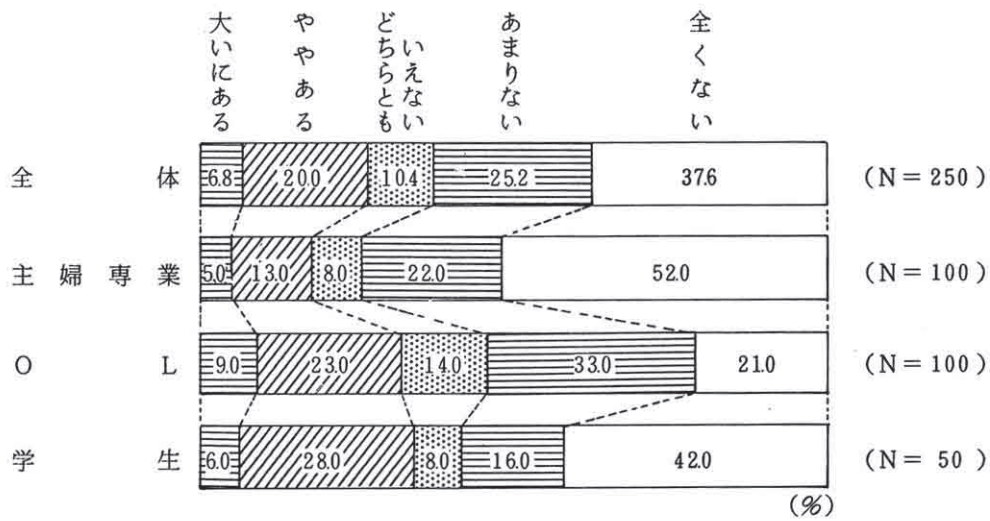
〔図-4〕洋服を着ない時があってもいいなと思うこと



「洋服」を着ない時があってもいいなと思うことが、全体では、10人に約8人(77.2%)の女性が「ない」とし、「大いにある」(24%)、「ややある」(12.0%)は合計36%と少なくなっている。

職業別にみても、「ない」とする人が圧倒的に多くなっているが、学生、OL、主婦の順で「ある」とする人が多くなっている。

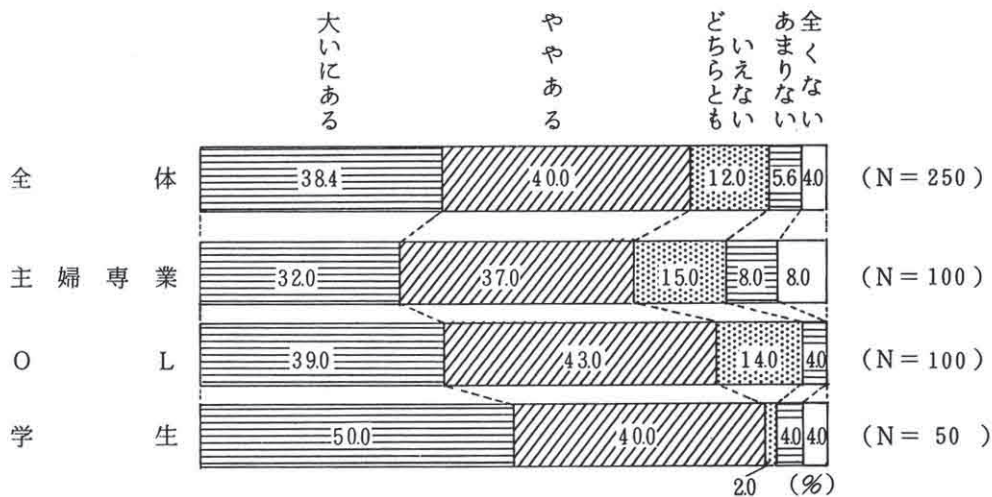
〔図-5〕下着をつけない時があってもいいなと思うこと



下着でも「ない」とする女性が62.8%と多い。「ある」割合は、「大いに」(6.8%)、「やや」(20.0%)の合計で26.8%となっている。

ただし、職業別にみると、主婦(18.0%)、OL(32.0%)、学生(34.0%)と「ある」とする人が多くなっている。

〔図-6〕お化粧をしない時があってもいいなと思うこと



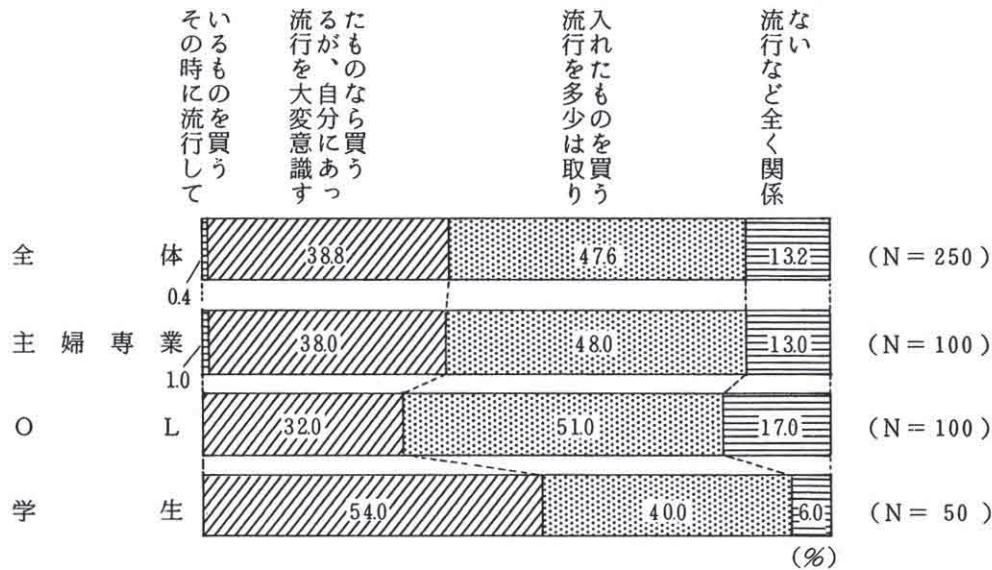
洋服や下着とは逆に、お化粧の場合は、「しない時があってもいい」とする人が「大いに」(38.4%)、「やや」(40.0%)と実に4人に3人以上もの回答を得た。「ない」とする人は、「全く」(4.0%)、「あまり」(5.6%)と合わせても1割弱であった。

職業別では、「ある」とする人は、学生、OL、主婦の順で高く、特に学生では9割が「ある」とし、「大いにある」が何と半数を占めている。

5 「流行」——「多少は取り入れる」洋服購入時。日頃の服装やお化粧品は「気に入らないと取り入れない」。

Q. ファッションやお化粧の流行についてお聞きします。

〔図-7〕洋服を購入する時の「流行」は

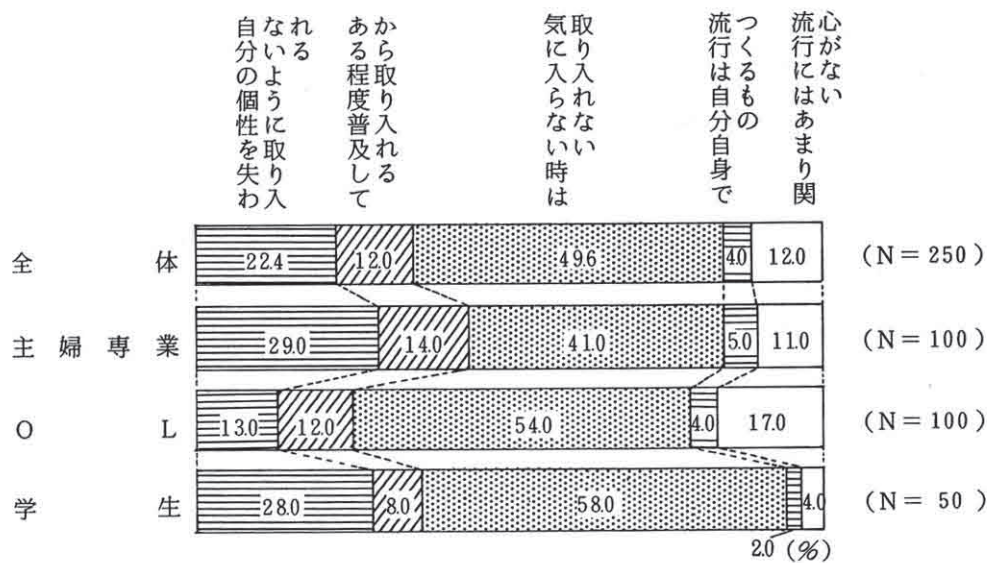


洋服を購入する時、「流行を多少は取り入れたものを買う」と答えた人が47.6%と最も多く、次いで、「流行が大変意識するが、自分に合うものなら買う」とした人が38.8%となっている。

「その時流行しているものを買う」と回答した人はごく少なかった。また、「流行など全く関係がない」という無関心派は13.2%だった。

しかし、職業別でみると、学生の半数以上（54.0%）が「流行が大変意識するが、自分に合ったものなら」とし、OLは「流行を多少は取り入れたものを」とする人が51.0%と過半数を示めた。

〔 図- 8 〕 日頃の服装やお化粧での「流行」については



日頃の服装やお化粧の時の「流行」の取り入れ方かどうかという、「気に入らない時は取り入れない」自己主張型（496%）が約半数。次いで「自分の個性を失わないよう取り入れる」個性型（224%）が第2位。「ある程度普及してから」とする慎重型（120%）、「流行にはあまり関心がない」という無関心型（120%）は少数で、「流行そのまま取り入れる」附和雷同型はゼロであった。

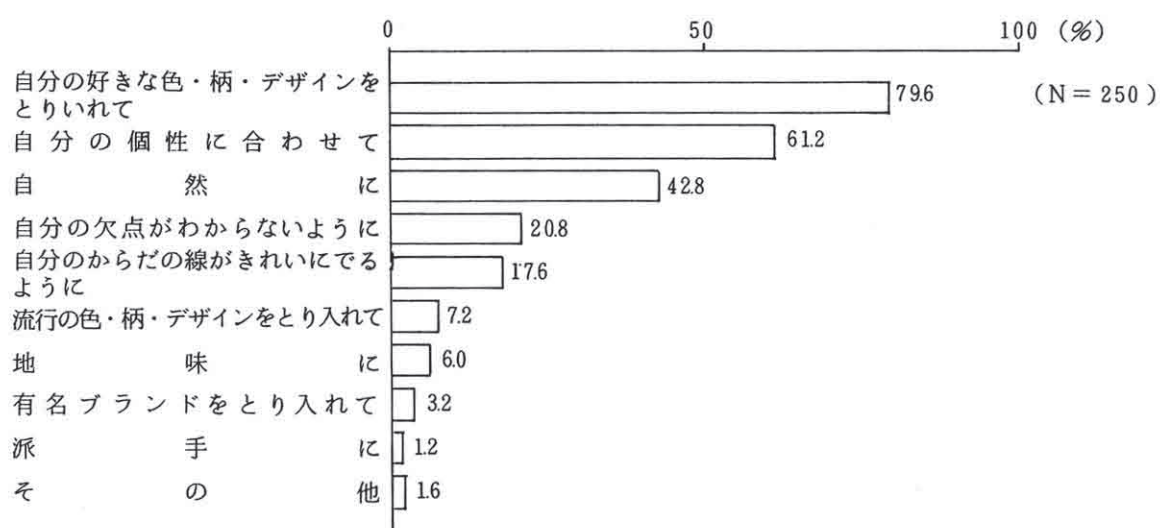
職業別にみると、自己主張型は、学生（580%）、OL（540%）、主婦（410%）の順に多く、個性型は意外にも主婦（290%）、学生（280%）、OL（130%）の順となった。また、OLでは無関心型が170%と個性型を上回っているのも意外な結果といえる。

6 「好みの色、柄、デザイン」「個性」「自然に」が オシャレの3要素。

Q. あなたはオシャレをする時、どの点にポイントをおきますか。

<回答は3つ以内>

〔図-9〕オシャレをする時のポイントは



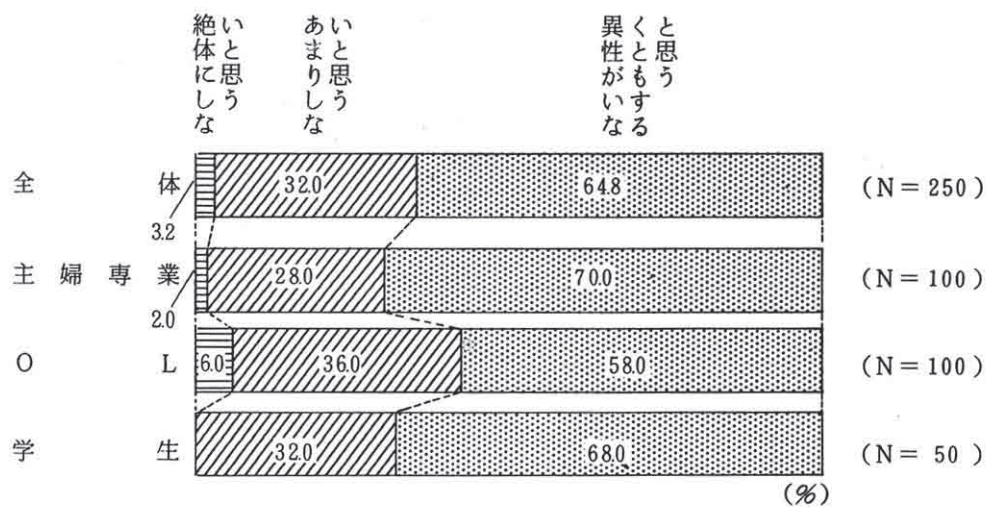
オシャレのポイント・ベスト3は「自分の好きな色、柄、デザインを取り入れて」（79.6%）、
「自分の個性に合わせて」（61.2%）、「自然に」（42.8%）であった。次いで「欠点がわから
ないように」（20.8%）、「体の線がきれいでるように」（17.6%）で、「派手に」「有名ブ
ランド」「地味に」という人はごく少数であった。

年齢別、職業別でも、ほぼ同傾向を示している。

7 この世に男性がいなくても、女性の3人に2人はオシャレする。

Q. もし、男性がこの世にいないとしたら、お化粧品やオシャレをしますか。

〔図-10〕もし、この世に男性がいなかったらお化粧品やオシャレは



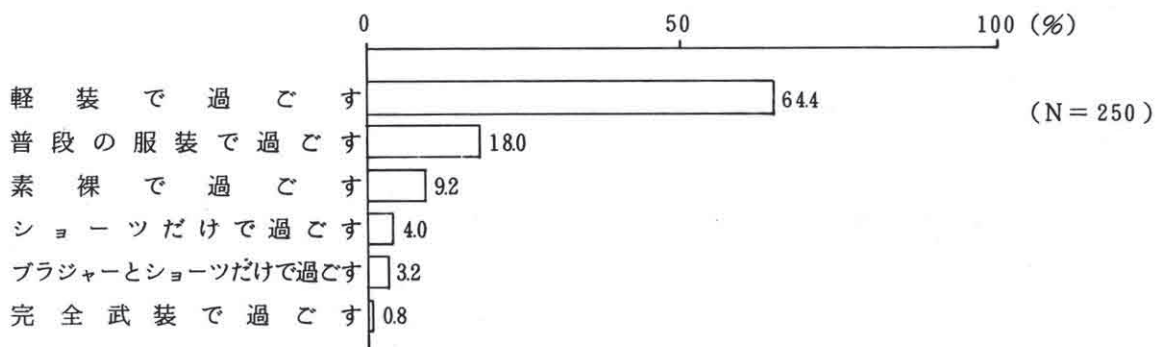
もし、この世に男性がいなかったら……果して女性はお化粧品やオシャレをするだろうか？
 「男性がいなくてもする」と思う人が64.8%と3人に2人。「あまりしない」(32.0%)、「絶対にしない」(3.2%)との結果が出た。

「男性がいなくてもお化粧品やオシャレはする」——女心の表われか。

8 無人島で一人過ごす時の服装は「軽装」が一番。

Q. 何の危険もない無人島に一人でいたとしたら、どのような姿で過ごしますか。

〔図-11〕無人島に一人でいたとしたら



万が一、何の危険もない無人島で過ごすとしたら、どんな服装で過ごすだろうか。

その結果は「軽装」が64.4%と圧倒的。その他「普段の服装」(18.0%)が2割弱みられる程度で、「素裸」「下着」でとする人は少数だった。「完全武装」という人は皆無に近い。

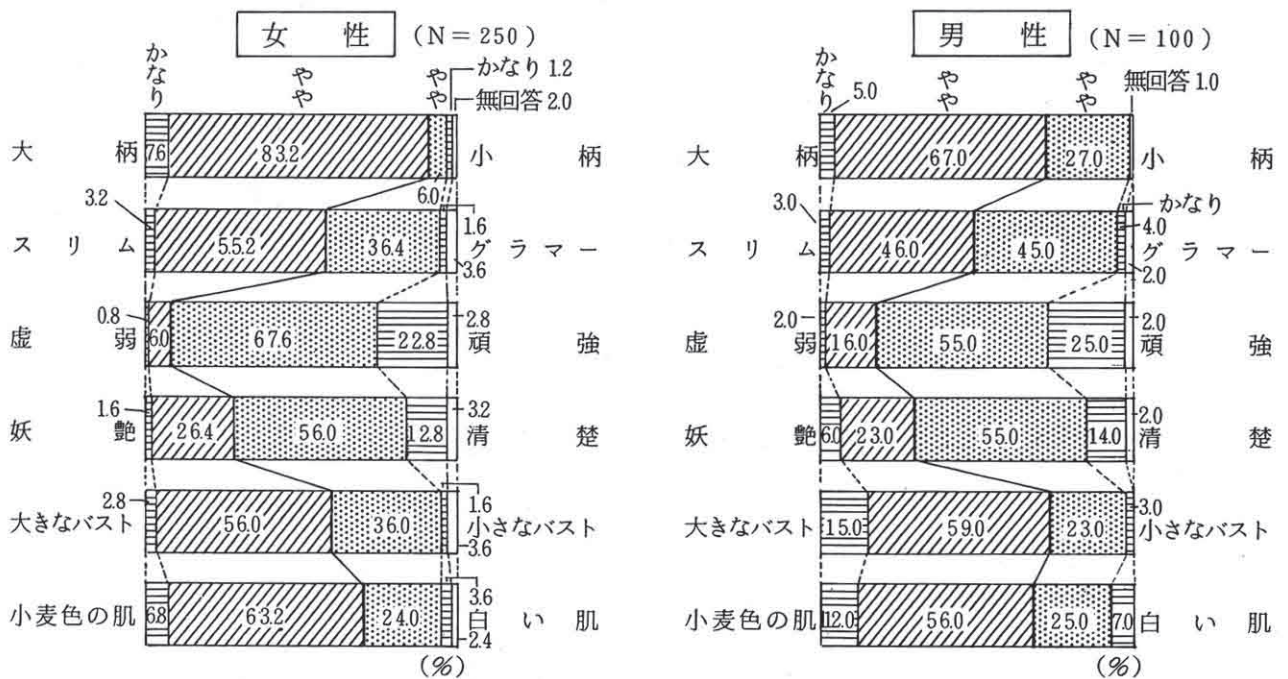
「無人島」のイメージが、ハワイやグアム、タヒチなど比較的南方諸島のイメージでみられているようだ。

9 80年代に求められる女性のボディ

「大柄」「スリム」「頑強」「清楚」で、「バストは大きめ」「小麦色の肌」の人。

Q. 80年代にふさわしい理想的な女性のボディについてどのようなお考えですか。 <男女共通>

〔図-12〕 80年代にふさわしい女性のボディ



80年代にふさわしい理想的な女性のボディは「大柄」「頑強」「清楚」「小麦色の肌」は、男女ともに圧倒的な支持を得た。

「スリムか、グラマーか」では、女性は「スリム」が「グラマー」を大きく上回ったものの、男性では半々となっている。

「バスト」についてみると、男女とも「大きめ」としているが、男性の方がより「大きめ」を望んでいるようだ。

10 「女性の美しさにも知性が必要」「オシャレやお化粧品にも自分の個性を大切に」「下着はつけ心地の楽な方がよい」、そして「健康美にまさる美しさはない」。

Q. 女性のファッションやボディに関する考え方についてどのようにお考えですか。 ＜男女共通＞

ファッションやボディについての考え方を 14 項目についてたずねてみました。

全般的に肯定する割合の高い考え方としては、「女性の美しさも知性が必要である」（平均スコア 170 点）、「オシャレやお化粧品にも自分の個性を大切にすべきだ」（同 169 点）、「つけ心地の楽な下着が求められている」（同 139 点）、「健康美にまさる美しさはない」（同 137 点）、「男性に美しく見られたいという願望がある」（同 130 点）などがあげられている。

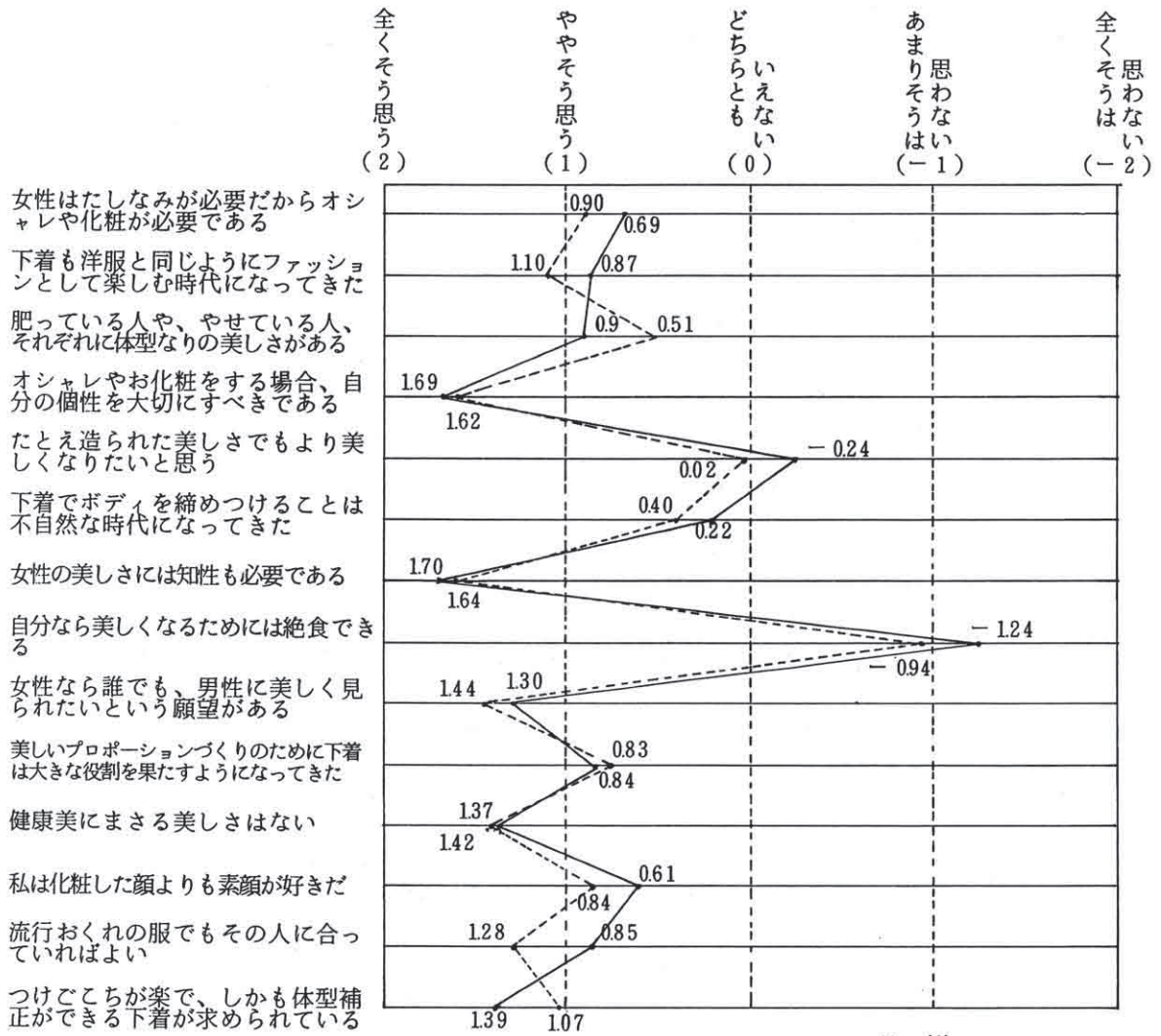
逆に、否定する割合の高い考え方は、「美しくなるためには絶食できる」（平均スコア - 124 点）「造られた美しさでも、より美しくなりたい」（同 - 024 点）などであった。

“造られた美しさ”や“絶食して美しくなる”より、もっと自然に“自分の個性を大切に”“知性と健康的な美しさ”が、現代女性の一般的な考え方のようなのだ。

また、下着には“つけ心地の楽な”ものが求められ、“下着でボディをしめつけることは不自然な時代”と考えているようだ。

男性の場合も女性の考え方に似ているが、「流行おくれの服でもその人に合っていればよい」とする考え方は、男性の方が女性より肯定する割合が高くなっている。

〔 図-13 〕ファッションやボディについての考え方 (平均スコア)

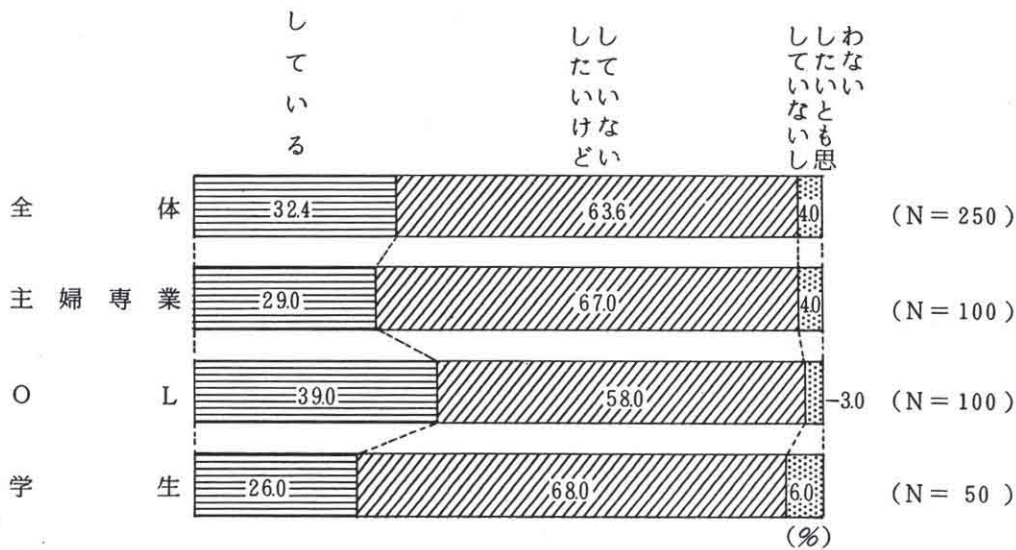


凡例
 — 女性
 - - - 男性

11 “スポーツをしたいが、していない”現代女性は10人に6人以上。——その理由は「時間」と「場所・施設」がないから。

Q. 日頃、何か運動やスポーツをしていますか。

〔図-14〕日頃、運動やスポーツをしているか



「スポーツをしている」女性は32.4%と約3人に1人。しかし、「したいけど、していない」という人が63.6%と、10人に6人以上もいた。「したいとも思わない」人は4.0%とごく少数。職業別では、現在「している」のは、OLが39.0%と最も多く、次いで主婦（29.0%）、学生（26.0%）となっている。

“スポーツをしたいけど、していない”これが現実の社会のようだ。

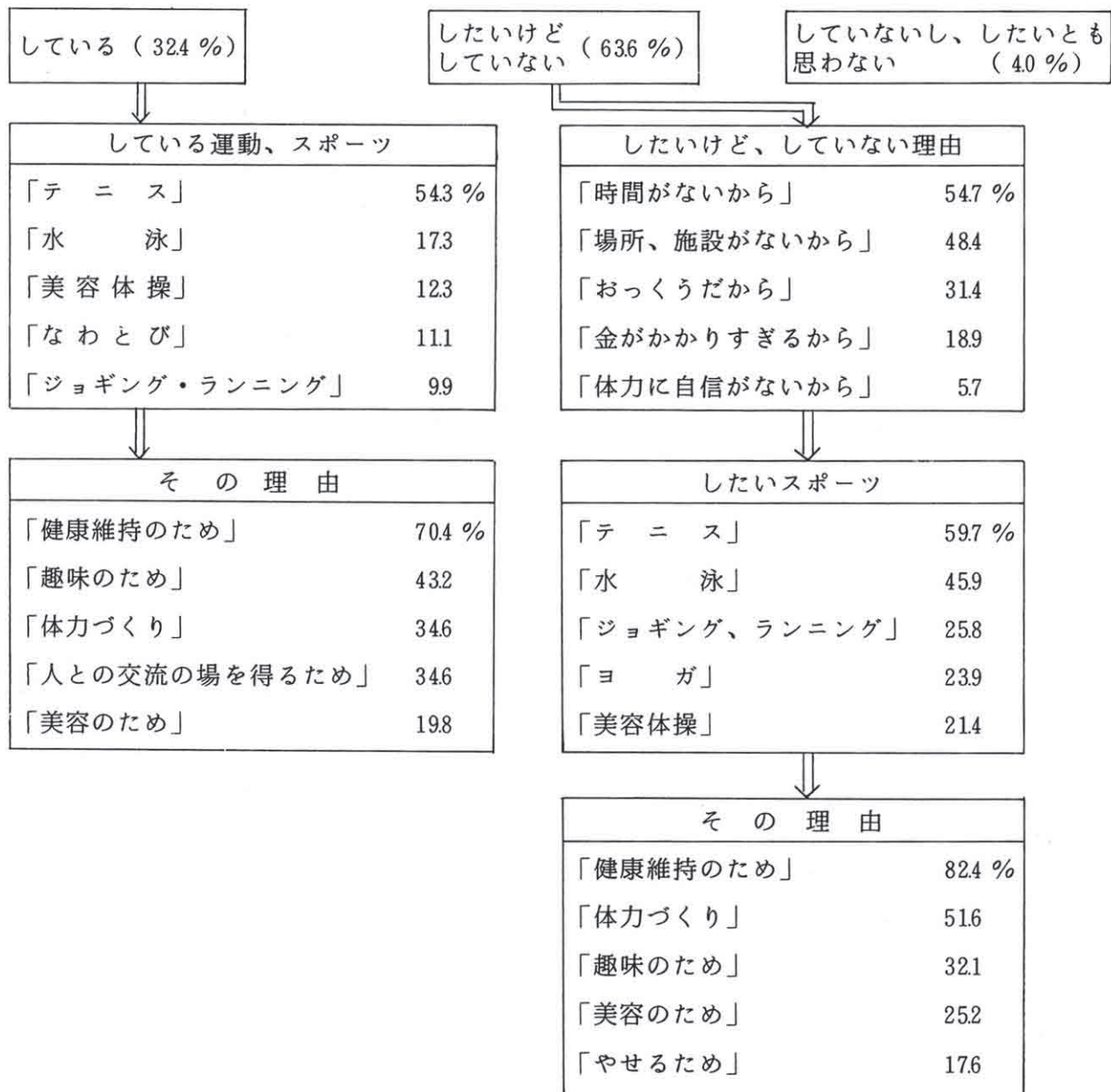
では、“したいけど、していない”その理由をたずねてみると……。

- ①時間がない …………… 54.7%
- ②近くに場所、施設がない …………… 48.4%
- ③おっくう …………… 31.4%
- ④金がかかりすぎる …………… 18.9%

が主な理由であった。しかし、ここで「おっくう」と答えた女性が31.4%もいるのは少々気になるところである。

その他、「しているスポーツの内訳とその理由」や「していないけど、したいスポーツとその理由」などについては、次のとおりである。

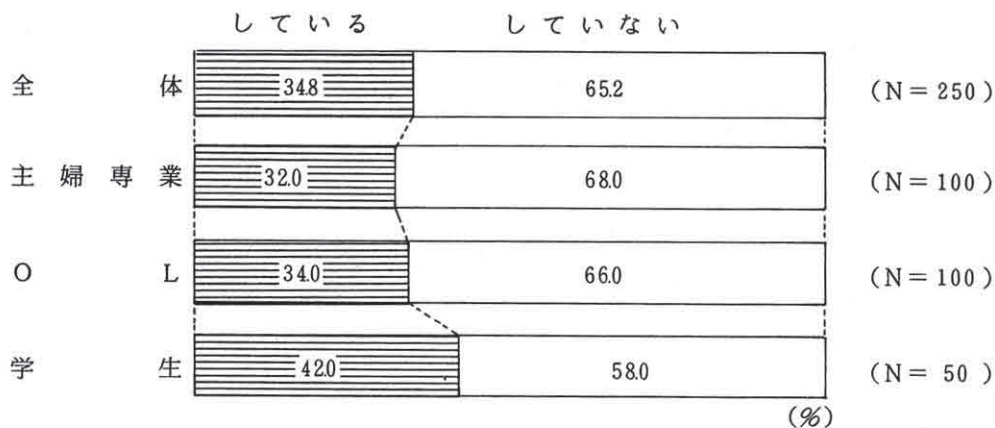
■ .日頃、運動やスポーツを——



12 食生活のコントロール、「していない」人が65.2%。 「している」人は3人に1人で「健康」のため。

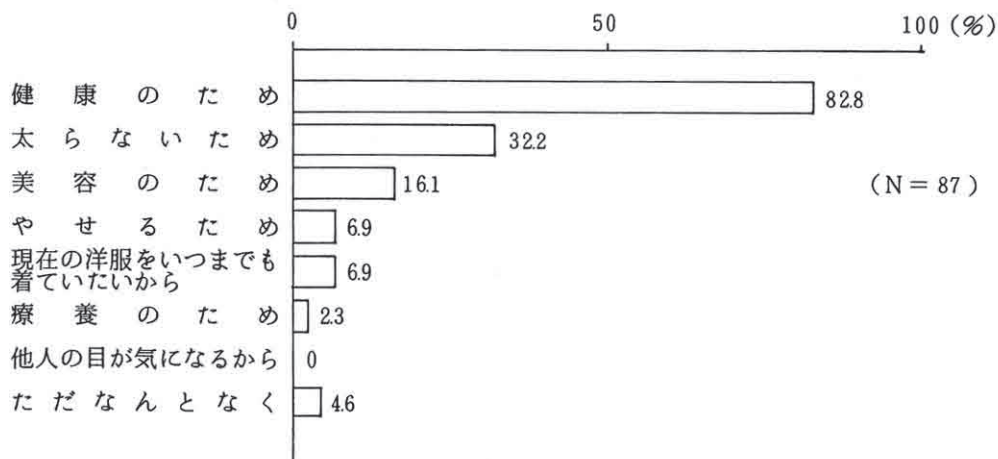
Q. 普段、何かの目的をもって食生活のコントロールをしていますか。

〔図-15〕普段、食生活のコントロールを



現在、何か目的をもって食生活をコントロール「している」人は34.8%、「していない」人が65.2%となっている。職業別にみると「している」人は学生が最も多く（42.0%）、次いでOL（34.0%）、主婦（32.0%）の順となっている。

〔図-16〕食生活のコントロールの目的は



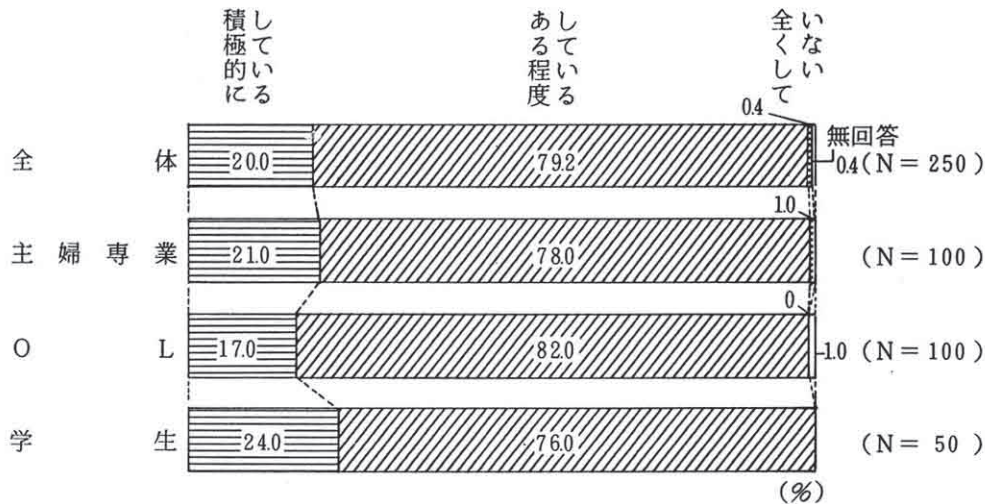
3人に1人がコントロールしているが、その目的を聞いてみると「健康のため」とする人が圧倒的に多い（82.8%）。

その他では「太らないため」（32.2%）が主なところで、「美容」や「やせるため」というのは少数であった。

1.3 “人づきあい” 積極的5人に1人、ある程度5人に4人。理想の形は「広く・浅く」が第1位。

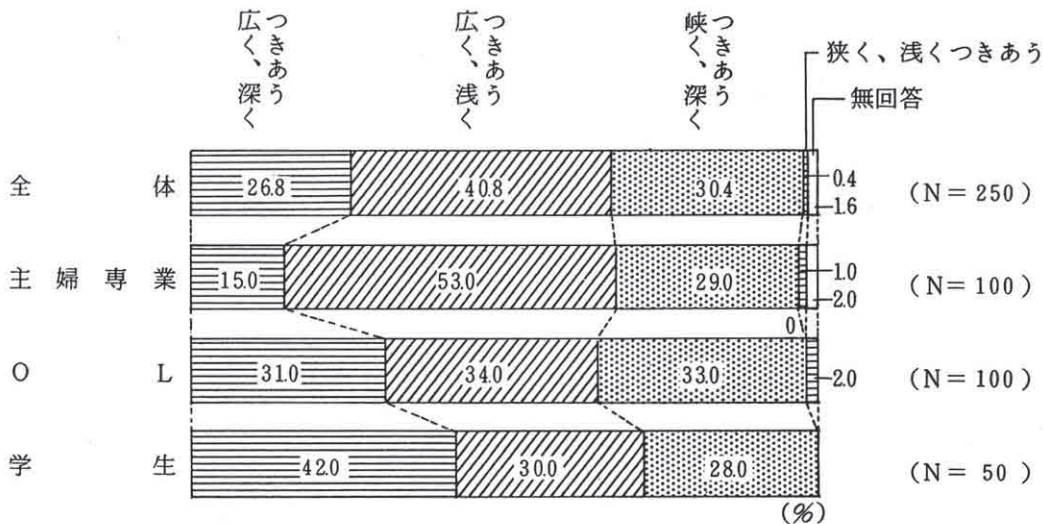
Q. 日頃、“人づきあい”をどの程度していますか。

〔図-17〕日頃の“人づきあい”の程度は



日頃の人づきあいの程度をみると、「積極的に」とした人が20.0%と5人に1人。「ある程度」とした人は79.2%とほぼ5人に4人で最も多い。「全くしていない」とした人は0.4%と極端に少ない。

〔図-18〕理想的な“人づきあい”の形は

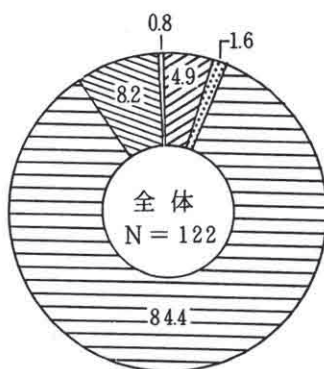


理想的な“人づきあい”のあり方については、「広く、浅く」とする人が40.8%と最も多く、次いで「狭く深く」（30.4%）、「広く、深く」（26.8%）となっている。職業別では、主婦の半数以上が「広く、浅く」とし、学生では「広く、深く」としている。また、OLは「広く、浅く」「狭く、深く」「広く、深く」がほぼ同数であった。






14 「無理をして結婚するつもりはないが、自分にふさわしい相手がみつければ結婚する」現代女性(未婚者)の結婚観。

Q. あなたの結婚観を1つだけお選びください。〈未婚女性〉

〔図-19〕未婚女性の結婚観は



(凡例)

-  理想の相手がみつからない場合、ある程度の妥協が必要だ
-  愛情よりも経済的な条件さえよければ結婚すべきだ
-  無理をして結婚するつもりはないが、自分にふさわしい相手がみつければ結婚する
-  理想の相手をいつまでもみつけるべきで、いない場合は無理に結婚する必要はない
-  その他

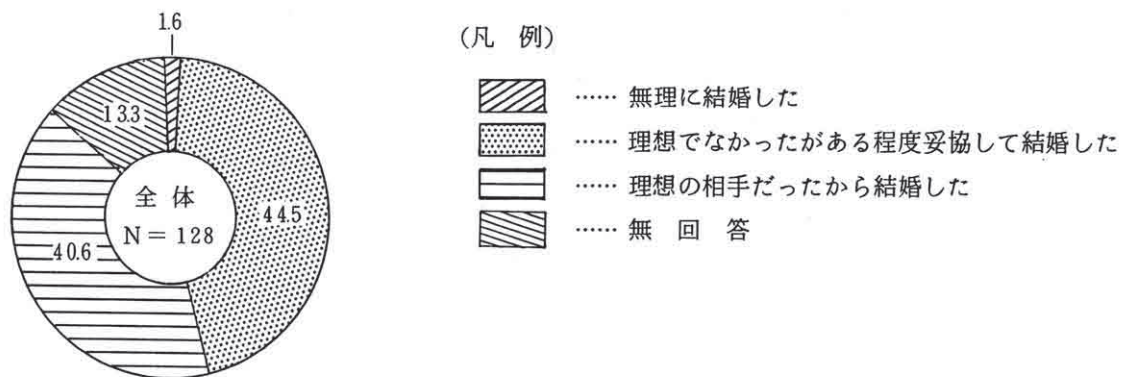
未婚女性の結婚観をみると、「無理をして結婚するつもりはないが、自分にふさわしい相手がみつければ結婚する」と回答をした人が84.4%と圧倒的に多い。

以下、「理想の相手をいつまでもみつけるべきで、いない場合は無理に結婚する必要はない」(8.2%)、「理想の相手がみつからない場合は、ある程度の妥協が必要だ」(4.9%)となっている。

15 結婚の実態、“妥協組”と“理想組”がほぼ同数。 でも半数以上が“ハッピー！”です。

Q. 結婚する時の状況は？ その結果、今あなたは？ <既婚女性>

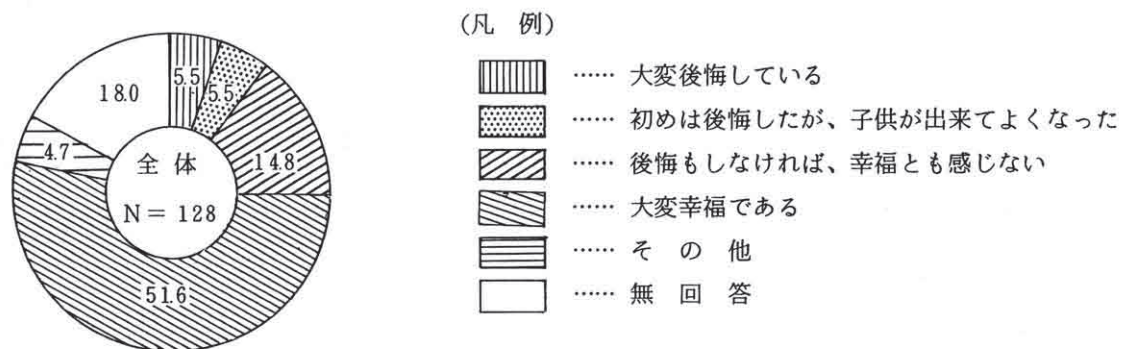
〔図-20〕実際の結婚は



既婚女性に、結婚当時をふり返ってもらったところ、「理想ではなかったが、ある程度妥協して結婚した」（44.5%）という「妥協組」と、「理想の相手だった」（40.6%）という「理想組」がほぼ同数になった。

独身女性の結婚観では、わずかだった「妥協組」が、実際では大変多くなっている。理想と現実とは、何々スムーズにはいかないものようである。

〔図-21〕その結果のあなたは今

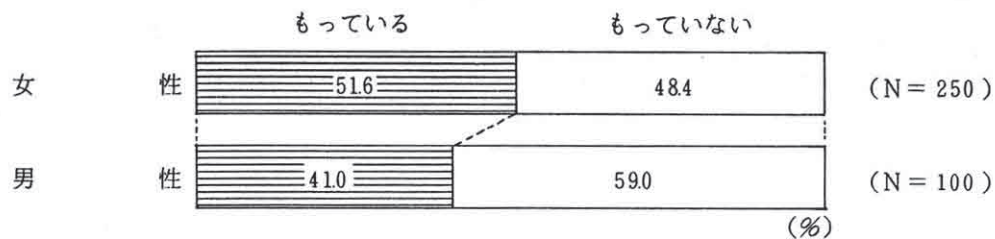
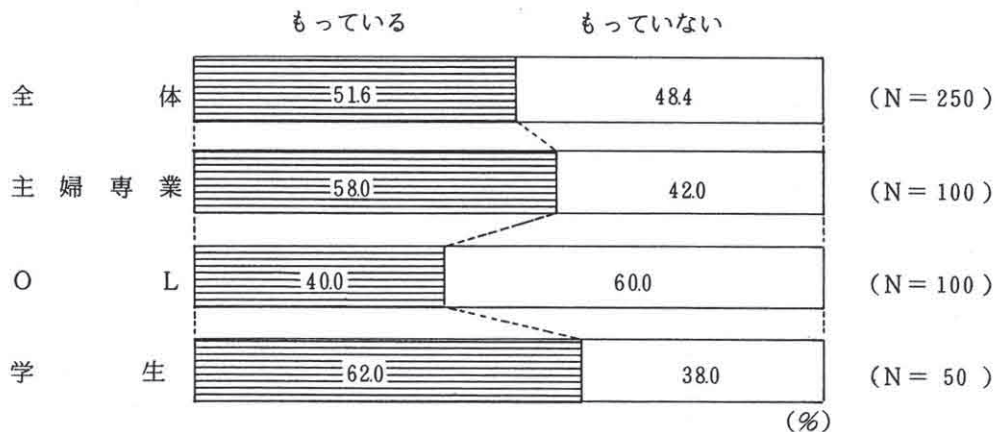


結婚に対する満足度をみると「大変幸福である」という「幸福組」が51.6%と最も多い。次いで「後悔もしなければ、幸福とも感じない」という「中間組」（14.8%）、「子供が出来てよくなった」とする「子はかすがい組」（5.5%）、「大変後悔している」という「後悔組」（5.5%）の順となっている。結婚相手の実態別にみると、「理想組」の8割強が「幸福組」であるのに反して、「妥協組」では「幸福組」が4割と半減している。「妥協組」の4人に1人は「後悔組」、1割強が「子はかすがい組」であった。

16 女性の2人に1人は、将来の理想や目的をもっている。

Q. あなたは（男性の場合は“女性は”）将来について、何かしっかりした理想や目的をもっていますか。 <男女回答>

〔図-22〕将来について、理想や目的は



将来について、しっかりした理想や目的を「もっている」女性は、51.6%と半数以上だが、男性の見方は「もっていない」とする人が59.0%と多く、多少の差異を生じている。

女性の職業別でみると、学生で「もっている」人が62.0%と最も多く、次いで主婦（58.0%）、OL（40.0%）となっている。

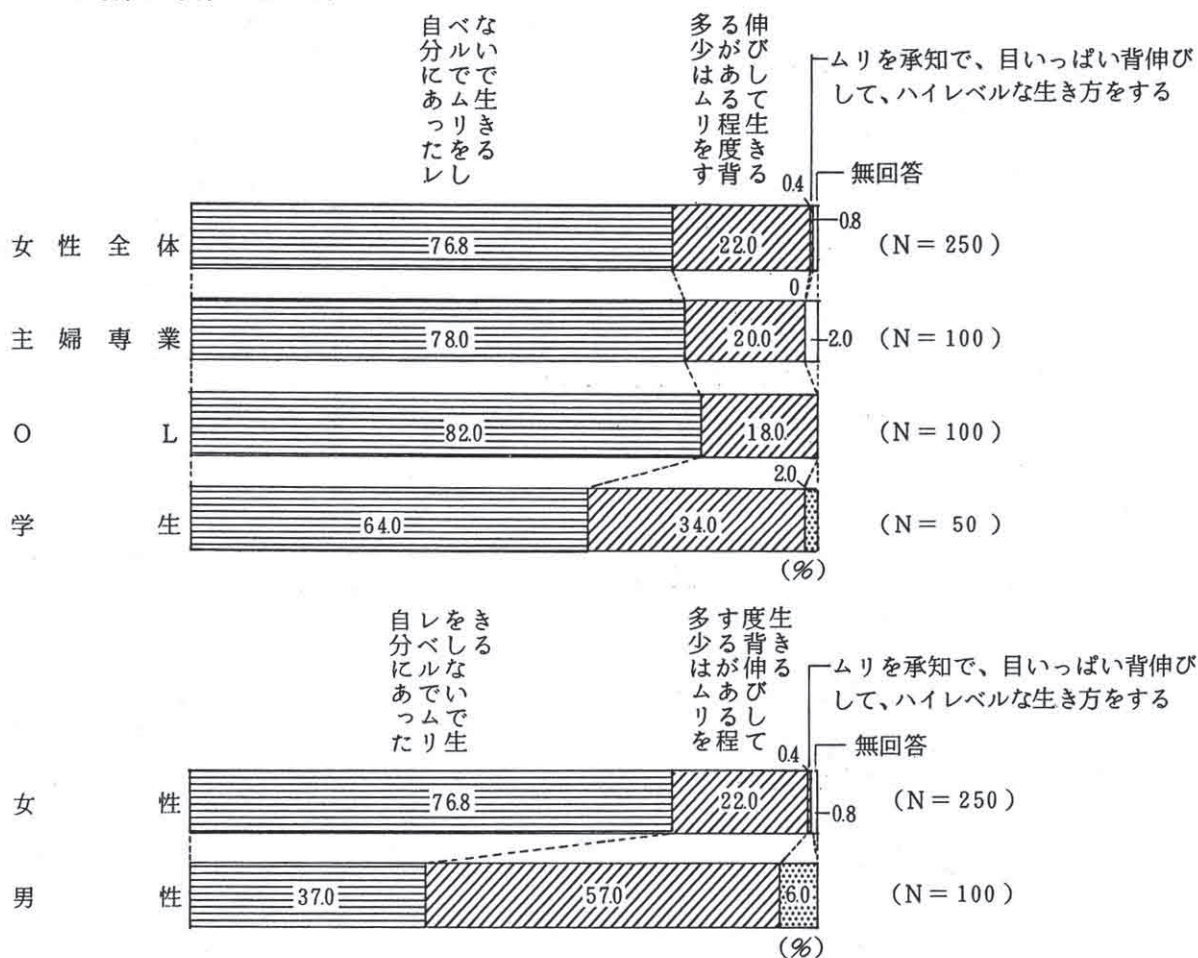
17 “自然に生きる”女性が圧倒的。

しかし、男性の見方は“やや背のびしている”。

Q. あなたの（男性は女性の）現在の生き方は、次のどれに近いですか。

<男女回答>

〔図-23〕現在の女性の生き方は



女性の現在の生き方をみると、「ムリをしないですっきり生きる」タイプが76.8%と、最も多かった。次いで「ある程度背伸びして生きる」タイプが22.0%。「目いっぱい背伸びする」タイプは0.4%と非常に少数であった。

職業別では、「ムリをしない」タイプはOLに最も多く（82.0%）、次いで主婦（78.0%）、学生（64.0%）の順。

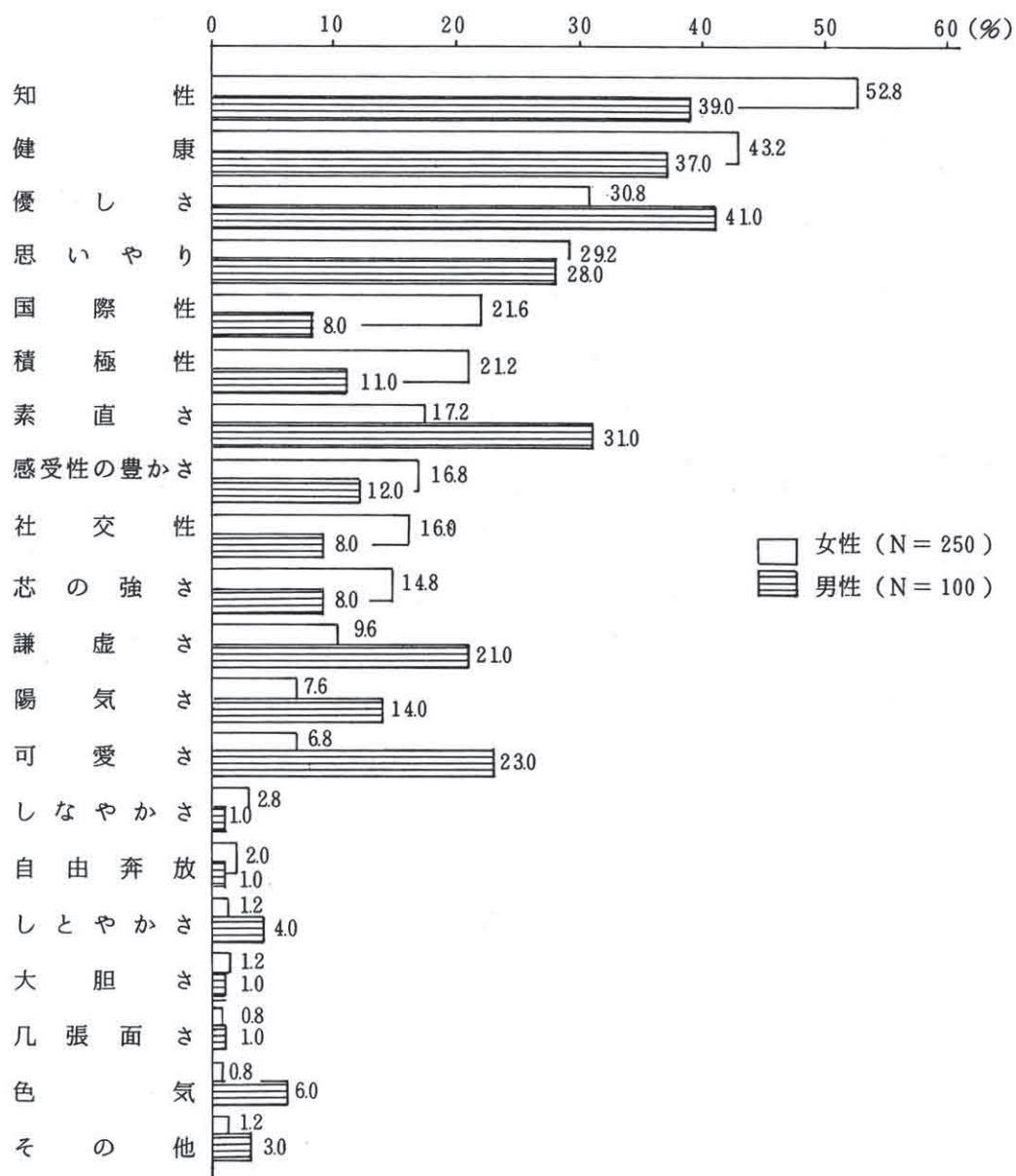
では、女性の生き方を男性はどうみているかというと、「ある程度背伸びして生きる」とみる人が、57.0%と最も多く、「ムリをしないですっきり生きる」とみる人は37.0%。女性の意見と男性の見方にくい違いが生じている。

18 80年代にふさわしい理想的な女性の要素—

①知性②健康③優しさ④思いやり⑤国際性

Q. 80年代にふさわしい理想的な女性の要素について、あなたは何が必要だと思いますか。 <回答は3つ、男女共通>

〔図-24〕80年代にふさわしい理想的な女性の要素は



80年代にふさわしい理想的な女性の要素は、「知性」(52.8%)、「健康」(43.2%)、「優しさ」(30.8%)、「思いやり」(29.2%)、「国際性」(21.6%)がそのベスト5。＜女性の見方＞一方、男性は、80年代にふさわしい女性の要素を「優しさ」(41.0%)を第1に考え、次いで「知性」(39.0%)、「健康」(37.0%)、「素直さ」(31.0%)、「思いやり」(28.0%)としている。

男女の違いをみると、女性は第1位に「知性」を必要としているのに、男性では「優しさ」を求めている。また、女性の第5位に「国際性」があがっているのに男性にはなく、替りに「素直さ」が第4位に登場している。

女性の考える「80年代の女性の理想像」と、男性の見方とでは、意識にかなりのズレがあるようだ。

19 80年代にふさわしい理想の女性

①桃井かおり②サッチャー女史③山口百恵

Q. 80年代にふさわしい女性は誰れだと思いますか。3名あげてください。

<男女共通>

〔表-1〕80年代にふさわしい理想の女性は

(単位：名)

女性	全体	O L	主婦	学生
桃井かおり	24	10	5	9
サッチャー女史	17	4	8	5
山口百恵	13	4	4	5
高橋展子	10	4	2	4
十朱幸代	8	6	1	1
黒柳徹子	7	—	5	2
ジェーン・フォンダ		4	—	3
松坂慶子	6	4	—	2
大竹しのぶ		—	3	3
市川房枝	5	2	1	2
渡部絵美		1	4	—
ジュディ・オング		1	3	1
ほか、101名の名前があげられている。				

(単位：名)

男性	全体
桃井かおり	19
松坂慶子	12
山口百恵	11
大竹しのぶ	6
竹下景子	
壇ふみ	4
ほか、87名の名前があげられている。	

80年代に最もふさわしい理想の女性は「桃井かおり」が、男女とも第1位と異論がなかった。次いで、女性の場合は、「サッチャー女史」、「山口百恵」、「高橋展子」、「十朱幸代」の順となった。

ただ、職業別にみると、OL、学生は「桃井かおり」が第1位だが、主婦では、「サッチャー女史」を最も理想としている。

男性の場合は、第1位は女性同様「桃井かおり」で、以下「松坂慶子」「山口百恵」「大竹しのぶ」「竹下景子」となっている。